

# 全国砂留シンポジウム 福山市神辺町で開催された

江戸時代 1731 年以前に造られたといわれる歴史的砂防「堂々川砂留」で保全活動している「御領の古代ロマンを蘇らせる会」が中心になって開催された。

福山市制施行100周年記念事業  
御領発! 古代ロマン 遺跡 古墳 砂留

## 全国砂留シンポジウム

日 10月9日 場 神辺文化会館  
時 12:30~17:00 所 大ホール 神辺町北1155-1

入場 無料

今 三代代が守る堂々川

砂留は時代を超えた宝もの

江戸時代に築造された堂々川の砂留群は、福山の地がかつて甚大な土砂災害に見舞われたことを物語っており、その困難に立ち向かった先達の努力と工夫を具現した貴重な歴史遺産です。この遺産を次世代へ継承していくためには、私たちの積極的な関わりが必要です。本シンポジウムでは、砂留群の重要性を再認識するとともに、これらを将来にわたって保護し、地域のために活用していく方策について考えます。

西小学校・中条小学校・御野小学校児童の活動発表もあるよ!

お集りの際、ご希望の方は予約をお持ちください。 (催し、500名程度)

大規模の4番砂留 (平成28年4月23日) 5番砂留さみり温泉花 6番砂留で遊ぶカナル 8番砂留時代の船匠土器

主催 御領の古代ロマンを蘇らせる会 (堂々川カナル同好会、下御領生産森林組合、自転車と遺跡を楽しむ会、神辺ふるさと会)  
後援 国土交通省中国地方整備局福山河川国道事務所、広島県、福山市、(一社)全国砂防治水協会、(一社)砂防フロンティア整備推進機構 (一社) 広島県土木協会。

シンポジウムは、砂留群の重要性を再認識するとともに、将来にわたって保全し活用していく方策を考える目的で開かれた。

一部は市内の小学校3校の児童による砂留保全活動報告があった。各校の締めくくり「生命をつなぐ、未来へつなぐ」「意識すると見えてくる」「受け継ぐ伝統、新しさへの挑戦」に感心した。

二部は尾島勝先生(福山大学名誉教授)の特別講演。歴史的砂防施設が歴史上重要な美しい遺構としてとして築造された砂留遺構の歴史伝

承についてやさしく解説された。終わりに「地域の人が、地域の努力によって、将来伝承して行くのが教育である。」と締めくくった。続いてパネルディスカッションが行われた。

コーディネーターは向井厚志福山市立大教授、パネラーは、広島県堂々川砂防の土肥徳之さん・別所砂留の光成良秀さん、長野県牛伏川砂防の加藤輝和さん、アカタン砂防から伊藤会長が参加予定だったが、集落の秋祭りとなり急ぎょ代理で私が参加した。行政から広島県東部建設事務所長の友道康仁さん、そして長野県砂防課長の蒲原潤一さんと話した。

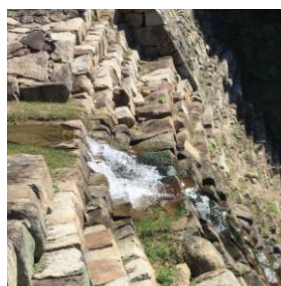
各団体の活動内容、課題や解決策そして将来に向けての方向性が主な流れであった。

蒲原さんは、歴史的砂防施設の形式と築造年代、砂留のルーツを発表された。印象的だったのは、「砂留鑑賞のツボ」「砂留が語るもの」をテーマに、砂防防災文化を語られた。アカタン砂防広報活動に参考にしたい内容だった。

翌日は1731年頃から築造された別所砂留と堂々川砂留を見学した。どちらも自然の摂理にかなった、地形に素直に従った美しい空積み砂防施設だ。

当会では、これまで牛伏川砂防、万内川砂防、穂高砂防観測所、立山カルデラ砂防、不動川砂防と交流しながら「全国イベント」開催を牛伏川砂防の加藤さんと思い描いてきた。

この度、日本最古の砂防「堂々川砂留」で、初の「全国シンポジウム」が実現開催された意味は大きい。各地の歴史的砂防仲間といい関係を形成しながら、地域資源を活かした防災減災活動を、行く先つないでいきたいと思う。



堂々川砂留



別所砂留

報告：田倉川と暮らしの会 田中保土  
echizentanaka@gmail.com

Facebook：砂防アカタン・コウクラ